

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)		都市型ホテル(スタッフ)	・11月までは前年よりも上回っている。ただし、12月以降は前年の方が良いため、楽観はできない。
		商店街(代表者)	・今後気候も良くなるので来客数も増える。
		商店街(代表者)	・喪中が及び年賀状、年末催事案内などで印刷関係が増える。
		商店街(代表者)	・客の様子から、売上及び売上点数が底を打ったようである。
		商店街(代表者)	・自然現象による特殊な状況で、最悪の状況は2～3か月後には解消される。今月に比べれば良くなるが、景気が良くなったということにはならない。
		一般小売店[鮮魚](店員)	・一番の稼ぎ時の年末に向かうが、ここで伸びなければ商売とはいえない。それほどの覚悟と気持ちで迎えるが、消費税増税が本当にあればまた景気が落ち込み、売れない日々が繰り返される。
		一般小売店[精肉](店員)	・今年は比較的涼しくなるのが早く、それにつられて鍋物需要が良くなる。
		一般小売店[生花](経営者)	・熊本地震で店舗を解体した後、7～9月は仮店舗で販売していたが脇や上から直射日光が当たりとても商品を並べられるような状態ではなかった。今後気候が良くなれば商売もしやすくなり来客数も増え、売上も伸びる。
		一般小売店[茶](販売・事務)	・気候に左右されやすいが、これから年末まで年間を通して売上は最も増加する。
		百貨店(マネージャー)	・外国人観光客による購買が前々年までに回復してきている。
		百貨店(店舗事業計画部)	・年末年始に向けてクリスマスを始め催事が増えてくる。商戦は直近化・短期化の傾向が強まっているが、ふだんは節約をしても特別な日にはぜひたいくをしたいと考える消費者も多く、購買意欲は高まっていく。
		コンビニ(経営者)	・総選挙の結果によって大きく景気が変動する。以前と比べ60～70代の高齢客が増えている。遠くのスーパーマーケットよりも身近なコンビニエンスストアの利用度が高まっているようである。
		家電量販店(従業員)	・寒くなってきて季節商材の需要が増えてくる。
		その他専門店[コーヒー豆](経営者)	・夏場の需要が少しずつ終わり、季節商材が消費される季節になってきた。今後は前年同様、若しくは10%客が増える。
		その他専門店[書籍](副店長)	・クリスマスから年始までは需要向上で、売上回復が見込める。
		ドラッグストア(部長)	・今月は台風による一過性の落ち込みと考え、気温が下がってくる季節には回復している。
		その他小売の動向を把握できる者[土産卸売](従業員)	・気候も良くなり秋の行楽シーズンを迎え人も多くなる。来年に向けての明治維新150年の催事及び、大河ドラマの影響でかなり売上の増加が見込める。
		高級レストラン(経営者)	・10月に入ればいろいろ行事があるので、予約も増えてきており何とか良くなっていく。アジアからの外国人観光客が増えてきており、宴会も多いので今後期待している。
		都市型ホテル(販売担当)	・繁忙期ということもあるが、客単価が上がってきている。
		都市型ホテル(副支配人)	・11～12月は、6週連続金土日曜にドームやコンサートホールで催しがあり、団体予約が非常に良い。
	タクシー運転手	・総選挙の期間中は繁華街の入出が減るので心配な面もあるが、内外の観光客が増えた分、タクシー利用も増え、売上も上乘せされている。このままの堅調さが続く。	
	通信会社(企画担当)	・地方創生、観光への国策が活発で、年度を折り返した現在、現場でも動きがみられる。	
	通信会社(営業)	・年末需要及び市場への依頼を厚くし、活性化する。	
	通信会社(営業担当)	・天皇陛下ご行幸が決まった地域があり、その日程に向けて地域住民の熱量が急が上がっている。	
	通信会社(企画担当)	・販売促進活動を行い、需要喚起を図る。	
	ゴルフ場(従業員)	・これからゴルフの時期になってくる。予約状況は前年比で5%減であるが、10月からは賃金も上がるということなので少し余裕が出てきて企業などの団体客が少しずつ増えてくる。体力のある企業は旅行などを楽しむ雰囲気になってきている。ただ、若者層を狙っていかないと相対的に上がらないので企業努力をしていく。	
	美容室(経営者)	・店舗が開店できず最低のどん底の状態であるが、今後は良くなる。特に年末は景気が一番いい時期である。政府も国民の生活が安定するように努力してほしい。	

美容室（経営者）	・年末に向けて購買意欲が出てくる。新製品も出てくるので販売に活かしていく。景気はだんだん良くなっていく。
設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込み需要がある。
商店街（代表者）	・この2～3か月に空き店舗が幾つか埋まった。順調に商売がなりたてば良いのだが、町としてはありがたいことである。少しは景気が良くなっているが、全体的には売上が良くなかったとは聞かない。
商店街（代表者）	・一般物品小売業の個人商店は、主要客の年金が減り、収入が増えない状況のなかで良くなるわけがない。大手企業や公務員以外で給料が上がったという話を聞かない。そういった状況で個人消費は伸びない。
商店街（代表者）	・気候も良くなり健康になって食欲も出てくる。ただ、富裕層はともかく庶民が多いので年末を控えて財布のひもが固くなって売上があまり伸びない。
商店街（代表者）	・高齢者が多い地方の商店街では、報道される景気の上向きなど全く感じられない。年金の減少や保険料などの値上げで自由に使えるお金がないとの声を多く聞く。
百貨店（営業担当）	・季節商材の本番の時期であるが、出足は好調でそれを引っ張れるかどうかで今後が決まる。若干客単価が下がっていることが気になるが販売量を増やしていく努力が必要である。今後新たな販売促進活動としてHPやSNSなどを強化して動員につなげていきたい。10～11月は地元野球球団の優勝もある。
百貨店（営業担当）	・慎重な購買姿勢は続いているが、日用品・精肉などの生鮮食品は堅調である。家具、家電などのリビング関連や高級輸入雑貨・貴金属・美術などの嗜好品は依然好調に推移している。
百貨店（営業担当）	・目玉となる商品が不在である。
百貨店（業務担当）	・客の購買欲が急に活性化することは考えにくい。ただ総選挙などの報道もあり、選挙となると来店機会が減り、先行きは不透明である。ただ、秋の始まりが例年より早いので、季節商材に期待したい。
百貨店（営業統括）	・株価や円相場は引き続き安定しているが、政治情勢が不安定なため、全体での購買意欲の向上は限定的である。10月には総選挙があり、事前の消費を控える傾向になる。
百貨店（売場担当）	・当社については、上期の来客数が前年を割っており、良くない。
百貨店（経営企画担当）	・来客数は好調な一方、客単価の減少が続いている。年金や社会保障の問題、消費税増税への懸念などから、客の低価格志向の強まりは依然として強い。
百貨店（売場担当）	・好転要素が見当たらない。
スーパー（店長）	・野菜の値段が高騰しているが、台風も過ぎ今後順調になって、ほぼ変わらない状況になってくる。
スーパー（店長）	・食中毒問題とマグロの売行き不振、旬のサンマは高騰で売行きが鈍く、食料品に関しては苦戦している。野菜は相場が前年の95%くらいで、全体的に前年を超えるのはかなり厳しい状況である。10月はハロウィーン関連の売行きが期待できるが厳しい状況で推移する。競合店も出店してきたのでかなり苦戦する。
スーパー（店長）	・今後とも消費が上向き好材料は見当たらない。競合店の出店や価格競争など周りの環境が厳しくなる。
スーパー（総務担当）	・同一の営業域内にディスカウントストアなどの新規出店が続いており、生鮮部門の一部は持ち直しているが、価格選別志向の強い日配品や酒類は当面厳しい状況になる。
スーパー（経理担当）	・肉・加工食品などは高品質高価格帯より廉価品の方が売れておりデフレ傾向が続いている。
スーパー（統括者）	・新規出店時でも、特別価格商品以外のついで買いは見受けられず、個人消費には盛り上がり感がない。これまで以上に価格には敏感になってきており、手取り給与の大幅上昇などがない状態では景気が良くならない。
コンビニ（経営者）	・変化を感じる要因はない。
衣料品専門店（店長）	・やっと仮設住宅が完成し、避難者転居が始まった。災害復興の進行を見守りたい。
衣料品専門店（店員）	・今年は冬の重衣料は必要ないのではないかと、という客の声を耳にする。今年も重衣料の動きが悪そうである。
衣料品専門店（総務担当）	・業界の現状や競合店舗の状況から、今後事態が好転するとは考えられない。

衣料品専門店（取締役）	・年末商戦真ただ中で、利幅の少ないセールがあちこちで行われているが、景気が良いということではない。総選挙も始まり、税金が無駄に使われているなか、客の財布のひもが固くなっているのはここ何年も続いており、当業界に限らず消費動向は今の日本の政治状況では非常に難しく、こういった調査を毎回答えるにあたり非常に心苦しい。
家電量販店（総務担当）	・冬商戦・ボーナス商戦までは、大きな需要が望めない。
乗用車販売店（代表）	・変わる要因がない。
乗用車販売店（総務担当）	・10月は自動車販売店にとって繁忙期である。10月中旬に大規模な催事を予定している。新型車の自動ブレーキなどの衝突防止システムのメリットを訴求し販売台数増加を狙う。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格の見通しは不透明である。10～11月の3連休の観光客の消費に期待したいが、10月には総選挙があり観光客への影響が心配される。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・個人客の消費に大きな変化はないが、年末まで映画の期待作がなく、集客面で年末の冬休み商戦まで苦戦が継続する。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・北朝鮮情勢など国際情勢の悪化が一番の不安要素であり、これ以上悪化しないことを望む。それ以外は大きな変動要素はない。
高級レストラン（経営者）	・気候も涼しくなり、鍋物時期になり来客数も増え良くなる。飲食業界は波があり前年比を達成できるかどうか非常に大事である。
高級レストラン（支配人）	・来客数が芳しくない。
スナック（経営者）	・相変わらず週末の集客が良くない。法人の団体客の減少が主な要因である。今年に入って前年割れが続いている。
旅行代理店（従業員）	・現在の予約動向のままで推移する。年末年始も前年同月を超えている。ただ、北朝鮮情勢の長期化で、市場が冷え込むことも考慮し、早急な対策も必要である。
旅行代理店（企画）	・商品の需要自体は、今月よりも上がる予定だが、前年比ではあまり変わる兆しはない。
タクシー運転手	・秋にかけて様々な催事があるためタクシーの利用が増える。
タクシー運転手	・今後は国の補正予算が作成されるが、それによって景気が良くなる。いくらかは持ち直すも個人の財布のひもは非常に固いため横ばい状況である。
競輪場（職員）	・売上が上下に振れる要素がない。
競馬場（職員）	・現時点で変更となる要素がない。
理容室（経営者）	・暑さも和らぎ涼しくなってきたおり、後半は特に客の動きが良くない。2～3か月先は大きな催事もなく人が動く要素がない。客の話を聞いても景気が良くなるといった話は聞かない。
美容室（店長）	・年末が近づくと周りの店舗も活気付いてくるので多少影響はあるが大きな変動はない。
設計事務所（所長）	・ここ半年間、コンスタントに仕事があり、量的には変わらない。良くも悪くもない。
設計事務所（所長）	・世界情勢や政治動向が不透明なので、どちらに転ぶかは不明である。
住宅販売会社（従業員）	・競合などにより厳しい状況は続いているが、商談客としては一定数おり状況は継続する。
住宅販売会社（代表）	・現状で景気が良くなる要因としては、一時的な増税前の駆け込み需要しか思い浮かばない。人口が減少しているなかで新築住宅で考えると今後減少傾向になっていく。後は既存住宅のリフォームやリノベーション、耐震リフォームなどが可能性としてはある。
一般小売店〔青果〕（店長）	・選挙期間はどの業界も閑散期であるというが、さらに政治不安や将来に対する不安、高齢者負担、年金などにより客の財布のひもは固くなっている。厳しい状況が続く。
百貨店（販売促進担当）	・景気回復と言われているが、来客数の減少は変わらず、それに伴い売上也減少する。
スーパー（店長）	・現状の社会情勢からは先行き不透明である。
コンビニ（店長）	・海外情勢と時期を誤った総選挙により、政治経済が不安定化する。
コンビニ（エリア担当・店長）	・弁当を宅配するサービスがあるが、人手不足により届けることができない状況が続いている。それによる影響で店に打撃を与えている。
衣料品専門店（店長）	・年末にかけても景気はあまり良くならない。

	乗用車販売店（販売担当）	・しばらくは年末に向けて来客数の減少が続く。
	その他専門店〔書籍〕（代表）	・アベノミクスの失政の影響がある。
	一般レストラン（経営者）	・総選挙が始まるとどうしても飲食業自体が悪くなるので、あまり期待していない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・北朝鮮情勢の影響により外国人観光客が減少する。
	タクシー運転手	・北朝鮮情勢と総選挙など、景気に対してはあまり良い影響がない。年末にかけては景気はやや下向きになる。
	観光名所（従業員）	・これから閑散期に入ってくるのと、凍結やチェーン規制などかかってくることもあるのでもっと来客数は減る。
	音楽教室（管理担当）	・受験、転勤の時期になるので生徒の動きがある。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・来年4月に予定されている介護報酬改定が厳しい状況となることが予想されるなかで、損益も悪化していく。
	住宅販売会社（従業員）	・総選挙による1か月の政治的空白と、経済の低下及び選挙の結果によっては尾を引いて政治的な動きが取りにくい状況になり、せっかく景気が上向いてきたがここにきて若干低下する。
	x	-
企業 動向 関連 (九州)	-	-
	農林水産業（経営者）	・スーパーマーケットや居酒屋向けは、運動会や行楽シーズンと重なり、かなり期待できる。今夏暑かった分、秋はかなり気温も下がりそうに消費にも大きく貢献できる。ただ、涼しくなると鶏肉の生産量が増え、供給過多により相場が下がる可能性がある。冷酒加工メーカー向けは毎年この時期、年末年始の生産に入るため受注量が増えてくる。
	農林水産業（従業員）	・良くなってほしいものである。
	化学工業（総務担当）	・年度末にかけて需要期となる。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・秋口の受注もいくらか入っており今よりは良くなる。今年は集中豪雨などの天候により売上に苦労したが今後良くなる。
	鉄鋼業（経営者）	・出荷数量が徐々に増加しており、荷動きが回復している。また新規契約も波はあるが以前よりも堅調に推移している。今後も建築のみならず土木も含めた商談が期待できる。
	一般機械器具製造業（経営者）	・受注量や客の動きから秋にかけて動きが良くなる。総選挙の結果によってはこの動きが阻害される懸念はあるが、現在の状態では若干の上昇が見込める。
	一般機械器具製造業（経営者）	・客への引き合い時の声として今後も受注量は増える。
	電気機械器具製造業（取締役）	・自社及び取引先においても人手が足りないくらいの仕事を抱えている状況である。
	精密機械器具製造業（従業員）	・前月に引き続き、受注先の工場が工事計画のため、作り溜めとして受注量が増産している。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新車両の立ち上げにより生産量が増加している。
	金融業（従業員）	・自動車の国内販売が増加してきているほか、海外向けも好調である。また、企業の新規求人は増加し、雇用者所得が持ち直してきており、旅行業取扱額や外食産業の売上も増加してきている。
	新聞社〔広告〕（担当者）	・総選挙による影響がある。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・当地は熊本地震の復興需要があるが、進んだのか止まっているのか分からない状況である。街中に空き地が増えたが、今後建物が増えてくれば少しは良くなるが、なんとなく空き地が増えるだけのようで不安である。
	農林水産業（営業）	・現時点がまずまずなのでこの状態が継続する。
	食料品製造業（経営者）	・生産量・販売量共に受注が見込めている。
	家具製造業（従業員）	・2～3か月先の物件情報量は増えていない。12月の季節指数は110%位だが見積依頼は前年より少ない。
	金属製品製造業（事業統括）	・北朝鮮情勢と総選挙とで影響は全く異なってくる。
	その他製造業〔産業廃物処理業〕	・買手が現在の相場を信用していないのか、下げの姿勢が見て取れ、景気は変わらない、もしくはやや悪くなる。中国に売りたくても受け入れが規制されてきたため、今後は難しくなる。
	建設業（経営者）	・建設業においては3か月という短期間では景気の動向は変わらない。

	建設業（社員）	・第2四半期に比べ、第3四半期の発注が少ないのは発注予定を見れば一目瞭然である。当社は今の時期いかに多く受注できるかが、年度末に向けての試金石である。技術者は多く在籍しているのもっと受注していきたい。
	輸送業（従業員）	・貨物が増える話はあるが、当地の場合は九州で1極集中となっており、需要と供給が一致しておらず、景気的好転に直接結び付かない状況である。また、商品の荷動きが良くないことが、倉庫不足の要因である。
	輸送業（総務担当）	・食品関係は堅調に推移しているが、衣料品関係はやや落ち込み気味である。全体的には変わらない。
	金融業（従業員）	・これといった好材料もないが、悪材料も見当たらない。ただし、総選挙の結果によっては上向きになる可能性もある。
	金融業（調査担当）	・不動産価格の上昇に注視している。
	金融業（営業）	・人材の確保ができれば、売上を拡大できるだけの需要はあるが、人材が問題である。現状維持の状態が続く。
	不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が横ばいに推移しており、今後も継続する。
	経営コンサルタント（社員）	・今月もこれから販売促進活動を開始するが、おそろしくいつもの月と変わらない。
	経営コンサルタント（社員）	・閉店している店が増えた。業態変更が進んでいる。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社ホームページのアクセス、問い合わせ件数に変化がない。
	繊維工業（営業担当）	・天候の異常で雨が多いとか、北朝鮮情勢とか、政治の不安定さで財布のひもが固くなっている。先の方からない状態で衣料品にお金は回らない。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・受注量の見込みが影響している。
	建設業（従業員）	・見積案件も少なく、人材不足で受注が難しくなっている。選別して受注しているので少し景気が悪くなる。
	通信業（職員）	・自部門の受注額は8月末時点で標準進捗を10ポイント以上上回っているが、今後は大規模な案件が減り、緩やかにしか伸びない。
	金融業（営業担当）	・昨今の政治、北朝鮮情勢及び総選挙などにより先行きが不透明になっている。心理的な面もあり若干景気は悪くなる。
	広告代理店（従業員）	・新聞折込の9月受注枚数は、前年同月比88%と今年度最も悪い実績であった。全ての受注状況が悪いわけではないが、新聞関連の販売促進費用は伸びがない。総選挙があるようだが、景気にどう作用するのか、購買意欲が活況になり、販売促進経費が増加するのを見守る。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・政権が不安定である。本当に戦争が起こったらと考える経営者が多い。そういう意味で先行き不安感がある。
	x その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村が発注する調査や計画策定を行うコンサルタントは、調査や計画業務の発注数自体が少ないなかで、九州北部豪雨によって業務を請ける機会を失ったことにより、更に売上が少なくなる。景気が悪くなる。
雇用 関連 (九州)	-	-
	人材派遣会社（社員）	・既存の客からお歳暮時期の求人依頼もきている。求人誌、新聞などの求人欄も多く、ハローワークの求人情報も分厚くなっている。また新規開店や工場の改装などもみられ、人手不足感が漂っている。
	人材派遣会社（社員）	・繁忙期に伴う業務量増加で、問い合わせは更に増えていく。
	職業安定所（所長）	・年末へ向けた消費が上向き、非正規の求人の増加が見込まれる。
	民間職業紹介機関（社員）	・コールセンター、通信業界の販売促進活動の活発化に期待している。
	人材派遣会社（社員）	・賃金の上昇の一途が続くまでの状況ではない。企業では採用が難しいなか、業務の外注化やシステム化、海外への業務集約など、採用以外の打開策の検討が進んでいる。そのため求人数がこれ以上増加し続けることはない。新規求人の賃金上昇が落ち着けば、人材の流動化も少し緩やかになる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・自社も含め、若い人の退職が目立つ。いわゆる転職である。各企業とも人手不足ではあるが、待遇より自分に合った環境での仕事を選ぶ傾向があり、決して景気が良いということではない。
	職業安定所（職員）	・事業所に業況調査をしても今後の景気状況については不明との回答が多く、様子見をしている事業所が多い。

	職業安定所（職員）	・介護分野も人材が不足しているが、特に訪問介護の場合、勤務時間や雇用関係が不安定であることもあり、希望者がほとんどいない。事業者によっては、人材不足のために利用を断らざるを得ない状況も生じている。
	職業安定所（職員）	・鉄道業を経営する企業の情報によると、市内の人口減少により、通勤、通学、買物の利用者が減っているため業績が上がらないようである。
	職業安定所（職業紹介）	・今後も求人数の増加傾向と求職者の減少傾向が続き、有効求人倍率は高い水準で推移する。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	・採用予定数を充足できていない企業は、継続的に求人活動を行っている。ただし、景気と求人状況との関連性については明言できない。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・総選挙の結果を受けて購買意欲がどうなるか分からない。
	人材派遣会社（社員）	・総選挙による特需はあるが限定的であり、時期的には年末に向け採用は減少してくる。
	人材派遣会社（社員）	・労働契約法の影響が出る。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・大手求人企業の寡占化により、中小企業の人材採用が難しくなっている。
x	-	-